

## 第 14回富山県入札監視委員会の審議の概要

開催日及び場所	平成 22年 7 月 23日（金） 県庁 4 階大会議室		
委員  (委員数：5) (出席数：5)	委員 長 広 瀬 慎 一（富山県立大学短期大学部非常勤講師） 委員 尾 畑 納 子（富山国際大学現代社会学部教授） 委員 島 谷 武 志（弁護士） 委員 土 開 由 香（税理士） 委員 中 村 和 之（富山大学経済学部教授）		
次 第	1 開会 2 入札・契約手続の運用状況の報告 富山県の入札・契約制度について 入札・契約方式別発注工事の状況について 一位不動入札、落札率 100%入札及び平成 2 年度落札率について 平成 2 年度低入札状況及び指名停止等の運用状況について 3 審議工事の抽出結果の報告 4 抽出事案の審議 5 審議結果の報告 6 閉会		
審議対象期間	平成 2 年度下半期（同時期に請負契約を締結した工事）		
抽出事案	10件（審議対象工事総件数 88件）		
一般競争入札	3 億円以上	1 件	（事案 1）一般県道姫野能町線道路改築牧野大橋（仮称）上部工工事
	1 億円以上	1 件	（事案 2）舟川総合開発事業舟川ダム取水放流設備製作据付工事
	2 千万円以上	3 件	（事案 3）一般国道 415号道路改築（富山東バイパス）J R 跨線橋下部工（P 7 橋脚）工事 （事案 4）富山県立富山北部高等学校第一体育館耐震補強工事 （事案 5）ほ場整備北山田中部東地区ほ場整備第 5 工区工事
	指名競争入札	4 件	（事案 6）白岩川水系栃津川砂防改良護岸工工事 （事案 7）一般国道 471号道路創造交付金（雪寒）高沼 5 スノーシエッド塗装工事 （事案 8）魚津港統合補助臨港道路北線舗装修繕工事 （事案 9）ふるさと林道有峰西岸線改良工事
随意契約	1 件	（事案 10）室牧発電所発電機固定子更新工事	
委員からの意見及び質問並びに当該質問に対する回答	意見・質問	回 答	
	別紙のとおり	別紙のとおり	
委員会としての意見	平成 2 年度下半期における建設工事に係る入札・契約については、概ね適正に行われていると判断する。		

別 紙

意見・質問	回 答
<p>事案 1 の工事は低入札調査案件となっているが、落札業者が行った経費削減内容は予定価格の積算に反映できる内容ではないか。この場合、予定価格を低く設定できたのではないかとと思われるが、どうか。</p> <p>事案 6 の工事について、指名業者 10 者の選定に当たり、工事場所から近距離にある B 等級業者 5 者、C 等級業者 5 者を選定しているが、各等級から 5 者ずつ選定することを前提として指名したのか。また、B 等級業者と C 等級業者は同列で選定したのか。</p> <p>事案 9 の工事について、指名業者の選定はどのような考えで行ったのか。また、辞退者が 7 者と多かったのはなぜか。</p> <p>事案 10 の工事について、随意契約の相手方以外の業者が行うことはできないのか。</p> <p>総合評価方式による入札を拡大すると、それに対応できる業者だけが生き残ることになり、業者が淘汰されていくのではないか。</p>	<p>予定価格は、県の積算基準に基づき積算し、通常、どの業者であっても間違いなく施工できる価格に設定している。今回の経費削減は、資材の大量調達ルートを持っているなど、落札業者特有の事情によるものである。</p> <p>業者の選定については、工事場所から近い順に選定したところ、結果的に各等級から 5 者ずつとなった。また、当該工事は、富山県建設工事等指名業者選定要綱上、B 等級、C 等級の両方の業者から指名することとなっており、その際、各等級の業者は同列に扱っている。</p> <p>業者の選定については、災害復旧的な側面をもつ工事であり、地元精通し技術力のある業者を選定した。また、辞退者が多かったことについては、施工箇所が遠隔地で急峻な地形であること等施工環境が厳しいこと、小規模工事でありながら工事内容が多岐にわたり、資材も少量多数であることから、価格面での折り合いがつかなかったものと考えている。</p> <p>当該発電機には、製造した業者の独自技術が使用されていることから、他の業者では行うことができない。</p> <p>総合評価方式については各業者ともかなり勉強しており、試行を重ねることで慣れてきている。一方、県としても、技術評価点等の公表を行うなど、当該評価結果に対する説明責任があると認識しており、今後とも慎重な評価、対応を行っていきたいと考えている。</p>
<p>(その他)</p>	